

当面の病床機能転換等の一覧（和歌山保健医療圏構想区域）

資料 1 - 3

No.	医療機関名	今後の役割・方向性 <small>令和4年 4月～5月 「2025年に向けた対応方針アンケート」より</small>	機能転換等の内容  (一般病床・療養病床)		転換等の時期  (見込)
1	医療法人粉川レディースクリニック	【E】 特殊な医療機能 (産科、精神科、障害者医療など)	廃止	急性期病床11床を廃止  < 廃止後の機能別病床数 > 0 床 (▲11床)	令和6年4月
2	医療法人裕紫会 中谷病院	【C】 地域密着型 (軽症患者の救急受入、 急性期病院からの転院受入、 在宅復帰へ向けた医療など)	転換	回復期病床23床を慢性期病床へ転換  < 転換の機能別病床数 > 回復期 137床 (▲23床) 慢性期 58床 (+23床)	令和6年4月
3	独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院	【A】 救急拠点型 (重症患者の救急受入れ、 高度・専門医療など)	転換	急性期病床50床を高度急性期病床へ転換  < 転換後の機能別病床数 > 高度急性期 150床 (+50床) 急性期 153床 (▲50床)	令和6年5月
報告	タナカ眼科	—	廃止	廃院 (病床4床を廃止)	令和6年1月

単独病床機能再編計画

機能区分	① 平成30年度 病床機能報告				② 令和2年4月1日時点				③ 現行（令和5年5月）				④ 病床機能再編後（令和6年4月～）			
	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数 (見込)
高度急性期																
急性期		有床診療所 入院基本料 1	13	13		有床診療所 入院基本料 1	11	11		有床診療所 入院基本料 6	11	11		なし	0	0
回復期																
慢性期																
分類なし (休棟等)		—		—		—		—		—		—	—	—	—	—
計 (一般病床＋療養病床)		—				—				—				—	0	0
変更の概要									入院基本料の変更				無床診療所へ変更予定 入院診療を中止し外来診療のみに転換予定			

(①注) 平成30年度病床機能報告から転記する。  
「病床数」は病院のみ記入する。

(②注) 令和2年3月31日までの間に病床機能・病床数を  
変更した場合に記載する。

(③注) 令和2年4月1日以降に病床機能・病床数を  
変更した場合に記載する。

当院における現在の病床の状況、再編理由、  
構想区域の現状・課題など 【詳細】

分娩を扱う診療所として有床診療所入院基本料1を算定し、産科救急や年間360～390件程度の分娩及び帝王切開術・婦人科手術などの入院診療を行っていた。近年、助産師などスタッフの確保が難しく365日・24時間体制での分娩対応に困難を生じる可能性が危惧され令和5年3月末で分娩取り扱いを中止した。和歌山医療圏において分娩医療機関が減少している現状を踏まえ、妊婦健診・産褥健診など外来診療に加え令和5年4月からは有床診療所入院基本料6に変更し、入院治療が可能な体制を継続し、異常妊娠や流産手術への対応を実施した。

しかしながら、分娩中止後の状況を見ても、産科有床診療所としての入院診療は少ない状況が続くことから、当院で病床を保有するより、県地域医療構想の取組を進めるため、和歌山医療圏に病床を返還し、令和6年3月末をもって入院の取扱いを終了し、外来診療のみに変更予定。



病床機能再編後の当院の体制・あり方

妊婦健診や産褥健診などの周産期医療に関する外来診療を充実させ、不妊治療、思春期・更年期健康相談、各種婦人科疾患の健診・治療などを担当し、基幹病院と連携することでのかかりつけ医として地域医療へ貢献したい。

## 【様式】 病床機能の転換・病床数の変更等について

現在の病床機能【概要】				
<令和6年1月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期				
回復期	1	急性期一般入院料4	42	90.2%
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料2	58	59.6%
回復期	1	地域包括ケア病棟入院医療管理料1	18	78.2%
回復期	1	障害者施設等一般病棟13：1	42	95.5%
慢性期	1	医療療養病棟基本入院料1	35	96.4%
計	5	－	195	－
(備考)				

現在の病床機能【詳細】
①入院患者の状況（主な疾患等）
○急性期一般入院料4（42床）令和4年度実績稼働率 90.2%
救急搬送及び高度急性期病院からの受入、特養や高齢者施設からの受入等、急性期病棟として幅広く患者の受入を行っています。
○回復期リハビリテーション病棟入院料2（58床）令和4年度実績 59.6%
脳疾患、骨折後のリハビリを実施し在宅復帰を目標として患者受入を行っています。患者様の病状に合わせて365日のリハビリを実施しています。
○地域包括ケア病棟入院医療管理料1（18床）令和4年度実績稼働率78.2%
包括ケア病棟としての役割であるポストアキュート、サブアキュートとしての機能を果たし在宅復帰を目標に受入を行っています。
○障害者施設等一般病棟13：1（42床）令和4年度 実績稼働率95.5%
難病、脊損、頸損等の長期療養が必要な患者の受入を行い、在宅復帰を目指しリハビリを実施します。
○医療療養病棟基本入院料1（35床）令和4年度 実績稼働率96.4%
急性期の治療を終えても引き続き医療提供の必要度が高く、病院での療養が継続的に必要な患者受入れを行っています。

医療機関名

医療法人裕紫会 中谷病院

今後の病床機能				<令和6年4月以降>
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期				
急性期				
回復期	1	急性期一般入院料4	42	
回復期	1	回復期リハビリテーション病棟入院料2	35	
回復期	1	地域包括ケア病棟入院医療管理料1	18	
回復期	1	医療療養病棟基本入院料1	42	
慢性期	1	障害者施設等一般病棟13：1	58	
介護医療院	0		0	
計	5	－	195	

(機能転換・病床数変更等の概要)

【病床変更内容】

・回復期 160床→137床【23床 減】

・慢性期 35床→ 58床【23床 増】

【内訳】

下記の3病棟の病棟変更を実施することにより、【回復期23床 減】及び【慢性期23床 増】となります。

・回復期リハビリテーション病棟【58床→35床】

・障害者施設等一般病棟【42床→58床】

・医療療養病棟【35床→42床】

機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
①病床機能転換計画を一部変更（病棟再編）する理由
当院は、平成30年9月に「医療療養病棟基本入院料1」を58床から35床に減床、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」を35床から58床に増床致しました。
転換時は、和歌山県全体の回復期機能需要の増加及び和歌山県地域医療構想に合わせ、慢性期機能(医療療養病棟基本入院料1)の病床減、回復期機能（回復期リハビリテーション病棟入院料2）の病床増を図りました。
しかし、現状(転換から約6年が経過)、当院の回復期機能（回復期リハビリテーション病棟入院料2）のニーズが増加せず稼働率が当初予定していた計画と相反する結果となっております。
当院の回復期機能（回復期リハビリテーション病棟入院料2）の現状は 実績指数22～25（昨年実績）であり、他病院では受入困難な事例（重度の意識障害・肢体不自由等）の紹介患者も多く、対象期間は密なリハビリ提供を行うも、その後、長期療養が必要で療養病棟や障害者病棟での療養を余儀なくされるケースが多いのも現状です。
つきましては、地域の実情を踏まえ令和6年4月以降に当院におきまして回復期（回復期リハビリテーション病棟入院料2）を23床減少させ、慢性期(障害者施設等一般病棟13：1と医療療養病棟基本入院料1)を病棟変更し、慢性期機能を23床増加させることが必要不可欠と考えます。
この度は、当院の稼働率低下及び当院への医療ニーズにより病棟再編となりますが今後において和歌山県地域医療構想における「将来の目指すべき医療機能別提供体制」を当院も目指すべく、今後の医療ニーズ等を鑑み、病床機能転換計画に努めます。

【様式】 病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名 独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院

現在の病床機能【概要】				
<令和6年1月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期	3	特定集中治療管理料3, 急性期一般入院料1	100	86.9%
急性期	4	急性期一般入院料1	203	85.4%
回復期				
慢性期				
計	7	—	303	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和6年5月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期	4	特定集中治療管理料3, 急性期一般入院料1	150	
急性期	3	急性期一般入院料1	153	
回復期				
慢性期				
介護医療院				
計	7	—	303	
(機能転換・病床数変更等の概要)				

現在の病床機能【詳細】
当院は、高度急性期病床としてICU病床6床とストロークホットラインを受入れ、脳卒中ケアに特化した病棟44床と、地域連携医療機関の医師からの要請に対し救急医師、救急看護認定看護師で構成された救急搬送チームが当院の救急車に同乗して迎えに行き早期の救急医による医療介入を実施して受入れしている病棟50床の計100床と急性期病床（急性期一般入院基本料1）203床を有する急性期総合病院である。



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
当院では南5階病棟（50床）外科系混合病棟において消化器外科を主に従来の開腹手術に代わり腹腔鏡下手術を実施しており患者さまの早期退院、早期社会復帰に貢献している。 和歌山県が提示している定量的基準の閾値である高度急性期と急性期を分ける基準「B 腹腔鏡・胸腔鏡下手術」で算定回数 0.5回／床／月を通年で25件／月以上をクリアしており、現在、腹腔鏡下手術を受入れている病棟50床について、急性期病棟から高度急性期病棟への転換を図る。